

こだわりの基礎工事

ここが
ポイント

耐久性を考慮した、
建築基準法よりも1ランク上の基礎仕様

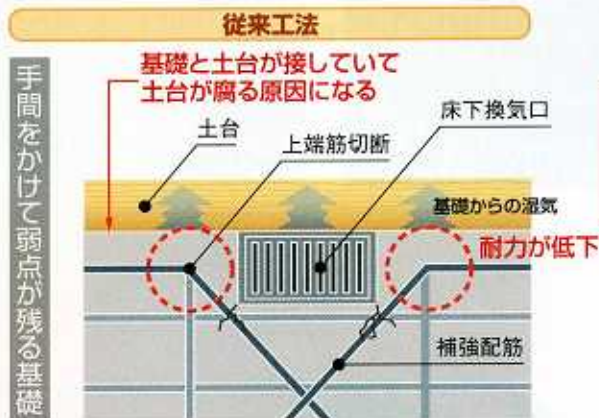
立ち上がり幅を150mm(建築基準法の25%アップ)に設定する事により、鉄筋の防錆配慮年数も建築基準法の2.6倍を確保しました。また、コンクリート強度21N/mm²を採用し、現場環境によっておこる強度低下に予め配慮します。



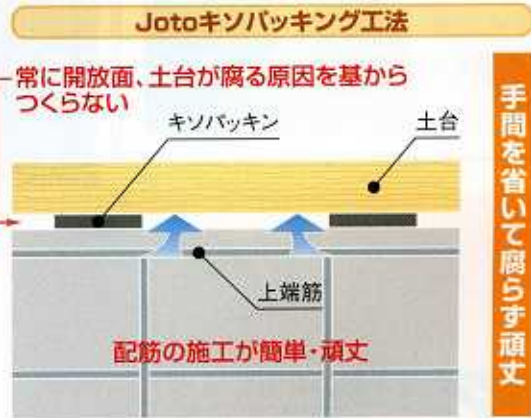
基礎は、建物の基本！べた基礎でしっかり施工

鉄筋入りのコンクリート板が、面全体で、建築物を支える基礎を「べた基礎」といいます。建物をコンクリート基礎全体で支え、建物自重・積載荷重を分散します。

■ 基礎強度の比較「どちらを選びますか？」



- 基礎に換気開口部を設けるのに上端筋を切断するため耐力が低下。地震に弱く、クラックの原因になりやすい。
- 基礎と土台が接しているため、土台が腐る原因になる。
- 基礎天端のレベル出しが大変。



- 基礎と土台の間が換気口なので配筋など施工が簡単。基礎は頑丈。
- 基礎と土台が離れているので土台が腐らず乾燥状態を維持。
- 基礎天端のレベル出しが素早く簡単。